

いけむら よしみつ
池邨 善満

9月26日

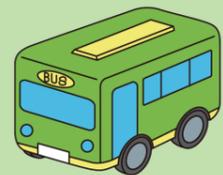
1. 便利で利用しやすいバス交通について

- (1) バス交通の役割について
- (2) 現行バスの交通施策について
- (3) 今後のバス交通の取組みについて



Q: より利用しやすいバスの運行形態はどんなものか。

A: 都心部では回遊性を意識したバス交通の実現、市街地では鉄道駅などの交通結節点へのアクセスを考えた路線の構築、郊外では乗り換え拠点となるミニバスターミナルなどの整備による利便性の向上、山間地では、効率的なデマンドなどによる住民の足の確保など地域の状況に応じたバス交通の実現が重要である。



さとう せいこ
佐藤 成子

9月27日

1. まちみがき戦略推進プランの推進について

- (1) 組織機構改正の成果について

2. 市政運営について

- (1) 静岡市版・棚卸と事業仕分けについて
- (2) 組織の統合や再編について

Q: まちみがき戦略推進プランの推進について

組織機構改正で新設された“地域活性化事業推進本部”の成果と現状の課題、今後の展開について質問した。

A: 推進している5事業の現状の説明、事業終了の「シズカン」の事業説明を通して、縦割り行政の弊害打破について、一定の成果があったと認識しているとの答弁だったが、現状の課題についても明確化した。推進本部の予算・権限の在り方や職員の配置(兼務の是正の必要性)にも言及し、今後、所管局と検討・調整していきたいと述べ、推進本部の見える化を図りたいと明言した。

おぎ たくし
尾崎 剛司

9月27日

1. 農業政策について

- (1) 現状と課題
- (2) 今後の方向性

2. 教育行政について

- (1) いじめ・不登校
- (2) 教員の不祥事
- (3) 学力調査
- (4) 小中一貫教育

3. 産業政策について

- (1) 事業所税について

Q: 静岡市の農業政策・目指すべき姿は？

A: ①安心、安全な食料の供給機能を維持するため、将来に渡り地域の農業を牽引していく、経営力の高い農業者や組織経営体の育成。②新東名や中部横断道などのインフラ整備を踏まえ、農産物の高付加価値化や直接販売、観光農業など農業の6次産業化。③水源涵養、景観形成など多面的な機能を有する中山間地域、都市住民に安らぎ、潤いをもたらす、防災機能を併せ持つ市街地周辺の農地の維持・保全の観点。これら3つの観点を踏まえ、若い人が夢を持てるような農業環境を構築して行きたい。



《11月議会日程》



会期：11月22日～12月14日
23日間

総括質問：12月3～5日
常任委員会：12月7日・10日

詳しくは会派ホームページをご覧ください。
<http://s-shinseikai.sakura.ne.jp>



市民対話集会を開催しました

新政会は初めての試みとして「市民対話集会」を計画し9月29日、10月14日の2回にわたって開催しました。

今回の市民対話集会は、来年度に向けた政策提言をより充実したものとする為、直接市民との対話による生の声を提言に盛り込むと同時に、会派所属の全議員に地域性による市民の思いや考えを共有し、同じ視点に立ってまとめる事を目的に開催したものです。対話集会では現在の会派活動と今後の方針、及び策定中の政策提言について説明を行い、参加者の皆さまの意見や考えを伺いました。

新政会は、これらの意見や考えを精査し、反映させた政策提言を10月末に田辺市長へと提出する予定です。



仙台市荒浜地区 東松島市視察

平成 24 年 8 月 22 日～ 23 日

望月厚司・兼高正男・中山道晴・佐藤成子
遠藤広樹・尾崎剛司・池邨善満・後藤哲朗



東松島市長（左から 4 番目）と

新政会は昨年 7 月に仙台市及び東松島市を訪問し、被害状況等を視察した。今回、前回訪問から 1 年が経過した現状と復興状況を調査するため、2 度目の視察を行った。



▼仙台市

復興に向けて、復興事業局を 2 年 4 月 1 日付で設置し、生活再建支援部・復興まちづくり部・宅地復興部など 3 部と震災復興室など 3 室 8 課を設け 166 人体制で復興支援に当たっている。「津波から命を守る」津波防災・住まい再建プロジェクトは、道路の 6 メートルのかさあげ（土盛り）や津波浸水シミュレーション等を市民に周知し、集団移転を推進。海沿い南北に走る県道 10 号線の海側を災害危険区域に指定し居住を禁止した。

内陸への移転が決められている 1,500 世帯のうち、約 800 世帯がこの荒浜地区だ。道路を挟んで移転地域と居住可能地域の明暗に対しての抗議の黄色い旗が立ち並ぶなど集団移転の難しさを感じた。



▼東松島市

“あの日を忘れず、ともに未来へ～東松島一心～”の合言葉のもと、復興作業が行われている。人口約 4 万人の町から市民が離れていかないよう市長自らが集団移転先の土地価格を交渉し、スピードのある復興を進めている現状を伺った。なかなか復興計画が立てられない被災地が多い中、東松島市は被災直後の平成 23 年度から 10 年間の復興計画を策定し、現在整備が進められている。市長のリーダーシップに世界各地からも支援が届いており、c・w・ニコル氏提案・支援の“森の学校”は小中学校 6 校のうち 3 校を高台に移転して建築予定。また、デンマークの皇太子からデンマークの自然エネルギーの事を伺い、東松島市を自然エネルギーのモデル基地にしていく事業の参考にさせていただいたとのこと。

「5 年後に再度訪問して下さい。必ず新しい街の姿をお見せします。」との自信ある言葉をいただいた。市長として、市職員を、市民を、ここまで引っ張ってきた力が伝わってきた視察であった。



安心・安全な
調査
視察
静岡を目指して



BCP 研修会 平成 24 年 9 月 13 日

静岡事業継続マネジメント協同組合の森清正氏を講師に迎え、BCP 研修会を開催した。災害発生後、市民生活の安定を図るためには、経済活動の早期回復が必要である。研修会后、中小企業の事業継続支援、また企業と自主防災組織との連携向上による地域継続力の向上など、東日本大震災での具体例も含め活発な意見交換が行われた。この研修会を通し静岡市の BCP 策定支援の必要性を確認した。

BCPとは？

BCP（事業継続計画）とは企業が自然災害、事故、テロ等の予期せぬ緊急事態に遭遇した場合に、重要業務に対する被害を最小限にとどめ、最低限の事業活動の継続、早期復旧を行うために事前に策定する行動計画のこと。計画策定の際には自社の業務プロセスを見直し、緊急事態の際の各事業ごとのリスクの大きさや、優先して継続・復旧すべき事業を定める必要がある。

港湾議員連盟研修会 平成 24 年 7 月 3 日

～地球深部探査船「ちきゅう」の誘致と効果について～



東海大学海洋学部
教授 山田吉彦氏

静岡市議会港湾議員連盟主催で、東海大学海洋学部教授 山田吉彦氏による「地球深部探査船ちきゅうの誘致と効果について」と題した研修会を開催した。地球深部探査船「ちきゅう」は、次世代エネルギーとして注目される天然ガス資源「メタンハイドレート」を試掘したり、巨大地震の発生の仕組みを解明する役割を担っている。

山田教授はこの中で「ちきゅう」が利用する清水港がある清水区に海洋開発研究・情報発信拠点を誘致するよう提案された。この研修会を会派提言に活かしていきたい。



教育現場視察 平成 24 年 9 月 10 日

望月厚司・兼高正男・中山道晴・水野敏夫・佐藤成子・遠藤広樹・尾崎剛司・池邨善満・後藤哲朗

新政会が毎年行っている教育現場視察を 9 月 10 日行った。この視察は、「教育現場視察を通して、学校の抱える問題点、課題等に関する生の声を聞き、改善を求める」ことを目的としている。

今回は、清水飯田中学校の不祥事や生徒指導問題などの対応と、清水江尻小学校の特別支援学級について視察した。



▼清水飯田中学校…7 月に発生した教員の不祥事や学校生活に馴染めない生徒の様子などについて説明を校長から受けた。これに対して議員からは、不祥事発覚後の生徒への対応や生徒指導の現状、地域との連携の必要性、警察 O B などによる外部の協力要請など、質問や意見要望が出された。また、教育委員会関係者の関与をもっと強くする必要があるといった意見も出された。

▼清水江尻小学校…特別支援についての取組みや課題が話し合われた。市内で特別支援を必要とする子どもが多く、支援員の数が不足している現状が指摘され、議員からは来年度予算要望で支援員の増員について取り組んでいくという意見が出された。

